

街かど gallery



八女市宅間田 堀川 秀子

今では私の生活の一部となつてしまつた押し花、おつきあいはかなり長くなりました。しかし、センスと技術を要する押し花は、私にとつてまだまだ難しいことばかりです。それでも、先生に助けていただきながら、自分の心に描いたイメージを作品にできた時は本当に嬉しいものです。

押花の魅力の一つに、花材の組み合わせの面白さがあります。花や野菜、木の皮や葉、和紙など、何をどう使うかによつて花材に新しい表情が生まれてきます。工夫しながら作画していると、時間のたつのも忘れてしまいます。これからも、私の生活にハリと色どりを添えてくれる押花を、みなさんと一緒に楽しんでいきます。

追悼コンサート「櫻庭伸幸君のプレゼント」

「天城越え」の編曲者 櫻庭伸幸君は八女出身です。櫻庭君は昨年9月15日に急逝しましたが、彼が作った多くの曲が私たちを勇気づけてくれます。

櫻庭君は立花町の光友小・中学校、八女高校卒。中学時代は野球少年、高校ではバンドを結成し、プラスバンド部の創設に貢献したと聞いています。東京の音楽専門学校を出たあと、歌謡曲の第一線で活躍。復帰後の都はるみさんの専属のような存在でした。

櫻庭という音楽家がいたことを、多くの方に知って欲しい、素晴らしい曲を聞いて欲しいと追悼コンサートを企画しました。

「夢芝居」「3年目の浮気」の編曲で知られるようになり、石川さゆりさんの「天城越え」で日本レコード大賞編曲賞を受賞。細川たかしさんの「望郷じょんから」、都はるみさんの「千年の古都」、坂本冬美さんの「風に立つ」、森昌子さんの「花魁」など数多くのヒット曲を編曲。山本譲二さんの「奥入瀬」やUWFプロレスのメインテーマ（入場曲）の作曲者でもあります。

3年前、八女市民会館おりなすで、「みんなで歌を楽しむ会」という音楽会をしました。同級生ら多数が出演。櫻庭君はピアノ伴奏で出ずっぱりでした。今回櫻庭君はいませんが、3年前の仲間（中島治男、山口昌世、野田ひろみ、ポインセチアら）が櫻庭君への思いを胸に、彼が残した数々のヒット曲を歌います。結成35周年の上陽コーラスあじさいも出演します。櫻庭ワールドをお楽しみください。多くの方のご来場をお待ちします。当日の様子はDVDにまとめ、来場の皆様全員にお届けします。

9月13日(日)午後2時 八女市農業活性化センター(上陽町北川内) 入場料／2千円(DVD代含む)

主催／追悼コンサート実行委員会(光友小中学校同級生)
後援／八女市・八女市教育委員会・光友地区地域振興会議

お問い合わせは福原
(携帯090・3199・1688)



櫻庭君(左)と中島君(3年前の音楽会で)

黄櫨の会 公開講座

聴講無料

どなたもお気軽に
ご来場下さい

テーマ 「魅力ある俳句とは」

講師 城 尊恵 先生 (西日本短大附属高校教諭)

日時 8月22日(土) 13:30～

場所 八女市社会福祉会館

今月の山柳



お盆に里帰りすると、土産に母が、必ず好物の高菜漬けを持たせてくれた。熟成発酵した古漬けは、少し酸味が効いて、絶妙な風味で母から子へ伝えられた昭和の日本の味である。

八女川柳会 安達 昇

今月の色

火裏紅



透明感のある強い紅赤。火焰の芯をイメージさせる色。視覚デザイン研究所刊「和の色のものがたり」より

夾竹桃

深町 準之助



夏は夾竹桃 暑さにめげず花ざかり 思わず目を向ける やさしさ色に秘めたその情熱 ほとぼしるエネルギー 今も心にのこる昭和 敗戦の日 夾竹桃はなおも けなげに咲いていた 平和とは 非情なくさの果てに咲く つましい花のことなのか なべてぼくら 茫然自失の あのと長くて暑い夏

夕食がすすんでも八月の空はまだ明るい。軒先に立てていたバンコ（ポルトガル語で腰掛け、床几の意）を起こすのを待ったように子どもたちが集まってくる。バンコの上でパタ（パッチ・メンコ）、コマ遊び、小さい子は腰掛けて線香花火。ひとしきり遊んだ後、タライに冷やした西瓜を母親に切り分けてもらう。子どもたちが引き揚げたバンコでは大人たちが納涼がてら将棋を指している。端では女たちが団扇で蚊を追いつながら世間話に歓声を上げる。そんな宵闇の中で見た西瓜の赤色は今も脳裏に残る夏の色である。

清少納言は「夏は夜、月の頃はさらなり：いとをかし」と夏の夜の楽しみを『枕草子』に残している。

光友地区地域振興会議では井戸ばた会議推進事業として光友地区の全集落にバンコを設置する。バンコ文化の復活を期待したい。

健康よもやま話 ⑧



姫野病院：松浦 緑郎
(健康管理士一般指導員)

●高血圧

お相撲さんを見ていると「大きくて強そうだ」と思うと同時に、「心臓は大変だろうなあ」と同情します。というのも、あの大きな体に血液を送り出すのは心臓の役目だからです。そして、このときに作られる圧力を「血圧」といいます。

正常の血圧の範囲は最高血圧で139mmHg以下、最低血圧は89mmHg以下です。つまり、これ以上が高血圧と考えていいのですが、もっともこれは一般成人のおおまかな基準で、血圧はさまざまな要因で複雑に変化します。

なかでも重要なのが年齢による差です。幼児期では80～90mmHg前後ですが、小学生になると100mmHg前後になり、思春期から20代では120mmHg前後になります。これは体が小さいときには、隅々まで血液を送るために力を必要としないのですから、血圧が低いのは当然といえば当然です。ですが、中年以降になると血圧は再び上昇をはじめます。

これは自然の変化として避けられないことではありますが、医学的にはそれ以外の原因による変化が重大で、その代表が血管壁の硬化です。若いときには柔軟で弾力性を保っていた血管も、長い間、強い圧力で血液が流れ続けているうちに血管壁は次第に厚くなり、さまざまなゴミ(=主にコレステロール)が張りついてくるようになります。その結果、血管が硬く狭く、いわゆる動脈硬化となり、ここを血液が通過するためには今まで以上の圧力が必要となり、さらに高血圧が進むのです。

この動脈硬化を起こす原因としては、動物性脂肪の摂り過ぎや煙草の吸い過ぎ、糖尿病、過労、ストレスなどが考えられます。高血圧では特に自覚症状もなく、血圧を測った結果、高血圧と初めて言われて気がつく人も多いためです。日頃は健康でも、突然、脳卒中や心臓病で倒れることもあります。血圧測定を習慣とされることを、お勧めいたします。

